



ET研究所ニュース 令和元年11月号

今回は、ET研ニュース平成28年7月号と同様に、授精後の血中プロゲステロン濃度を補強することで受胎率の向上及び胚死減率が減少した報告を紹介します。

定時人工授精後の長時間作用型プロゲステロン（P4）投与効果

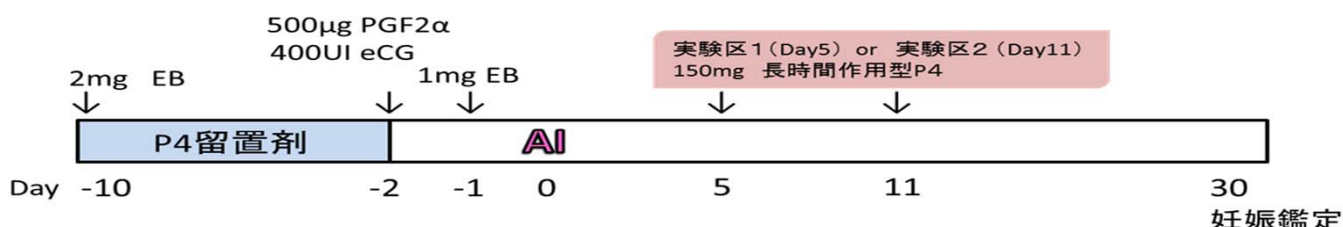
材料・方法

供試牛：肉用牛（ネローレ）732頭（2産以上534頭、初産117頭、未経産81頭）

*経産牛は分娩後30-120日

①Day5またはDay11で長時間作用型P4投与区とControl区における受胎率を比較した。

②Day30-60およびDay60-90で各実験区における胚死減率を比較した。



結果

①受胎率は、Day30の妊娠鑑定においてDay5長時間作用型P4投与区とControl区の間で有意差がみられた。

実験区	頭数	受胎率
Day5-P4	235	47% ^a (110)
Day11-P4	245	42%(102)
Control	252	39% ^b (99)

^{a,b}異符号間に有意差有り (P<0.05)

②胚死減率は、Day30-60においてDay5およびDay11長時間作用型P4投与区とControl区との間で有意差がみられた。しかし、Day60-90においては差がみられなかった。

実験区	頭数	胚死減		合計
		Day30-60	Day60-90	
Day 5 -P4	110	2% ^a (2)	1%(1)	3% ^a (3)
Day11-P4	102	1% ^a (1)	3%(3)	4% ^a (4)
Control	99	8% ^b (8)	2%(2)	10% ^b (10)

^{a,b}異符号間に有意差有り (P<0.05)

血中P4濃度の補強が胚の生存・成長にいい影響を与え、特に早期胚死減を減少させると考えています。今回紹介したのは注射型のP4剤でしたが、CIDR®など腔内留置型P4剤でも効果があるとの報告もありますので、どうしても受胎させたい牛などに試してみたいはいかがでしょうか。

出典：Impact of supplementation with long-acting progesterone on gestational loss in Nelore females submitted to TAI Samuel *et al.*, Theriogenology, vol.125,2019

文責：藤吉